

目的 本研究では報告その1に引き続き、生活時間設計についての実験的授業実践の結果に基づいて、生活時間設計を家庭科教育学の視点から分析した。授業で使用した生活時間設計票についても考察した。

方法 報告その1と同じ。

結果 (1)あらかじめ計画をたてて1日を過ごすことはよいと思うという生徒は56.4%、思わないという生徒は23.9%であった。計画実行性の難しさを問う質問とクロス集計をとると、1日の計画をたてて実行することは難しいけれども、計画をたてることはよいと考えている生徒が多かった。意識をすることでより充実した1日が過ごせると思うという生徒は57.3%、思わないという生徒は19.7%であった。計画をたてるとその日の意義が出てきて充実してくるといった意見がある反面、完璧に過ごしても充実感は得られないという意見もあった。(2)人との関わりを含めた計画方法として一緒に行動する人の欄を設け、その活用度をみてもみると、62.4%が各行動について考えており、あまり考えなかった生徒は7.7%であった。他者との時間調整については52.6%が大変と感じており、あまり大変ではないと考えている生徒は31.5%であった。(3)この授業でもっとも配慮した点は、計画を随時改良していくよう方法を探るところであった。計画-実際シートから、それぞれ計画を阻んだものに対する具体的な対処法を探ることによって、自分なりの答えを導き出すようにした。(4)生活時間設計票は書きやすかったという生徒は54.7%であった。授業はわかりやすく、楽しいものであったという意見が多かった。